

大野一心

NO.6

令和3年6月3日（木） 文責：校長 諸熊 修一

いのちを見つめる講話

今年も6月1日がやってきました。今から17年前の平成16年6月1日に子どもたちにとって安全安心でなければならない学校で、起きてはならない事件が起きてしまいました。生徒の皆さんが、まだ生まれていない頃です。このような事件を今後、起こしてはならないという決意と願いをこめて、「いのちを見つめる強調月間」が始まりました。しかしながら、7年前の平成26年7月に佐世保市内の学校において、また痛ましい事件が起きました。事件から得た教訓は、決して風化させてはなりません。



講話では、東日本大震災のときに起こった出来事を基に「強く生きる」とはということかということについて、考えていきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、全校集まったの講話ではなく、1時間ごとに時間をずらしながら学年ごとに実施をしました。講話後の感想には、日ごろの自分を振り返ったり、いのちの大切さについて真剣に考えたりしてくれた生徒もいて、とてもうれしく思いました。



授業後の生徒の感想を紹介します

1年生：Iさん

今日の授業を受けて、今ここで生きられているということは、とてもすごいことなんだなと思いました。東日本大震災で命を落とされた方々は、死にたくて死んだわけじゃなくて生きたくても死んでしまったと考えると、今ここで友達とおしゃべりしたり勉強したり部活動ができるということは、当たり前じゃなくて、とてもありがたく、すごいことなんだと強く実感した。これからも命、自分を大切に感謝の気持ちを忘れることなく生きていくべきだと思いました。

1年生：Hさん

今回の授業で改めて生命の大切さを知り、今後はもっと生きていることに感謝をし、胸を張って生きたいと思った。震災の日に生まれた子供が「陽生」という名前前で、その由来を聞くと、震災の日生まれた子供は感動的な名前由来があるんだなと思った。最後のVTRで、震災の日生まれた赤ちゃんもこんなに笑顔になるんだなと思った。自分を生んでくれた母親にあらためて感謝をします。その中で見守ってくれた父親にも感謝します。

2年生：Yさん

長崎県は災害も少なく、あまり大きな被害が出たりすることもないので、油断していました。このような災害の画像を見ると、災害はやっぱりいつどこで起きるか分からないんだなと感じました。緊急の時にどうやって連絡するか、どこに集まるかなど何もわかりません。家族全員の命を守りあうためにも、ちゃんと災害に備えて家族と話し合うべきだなと感じました。昨日は、私の誕生日でした。今年無事に14歳を迎えることができ嬉しいです。私は過去に、何かの本で「私の誕生日は親と一緒に過ごす、親に感謝を伝える日にしている」というような言葉を見ました。それを読んだ時に、私はあまり普段自分から親に素直に感謝を伝えているか不安になりました。だからこそ、いつ消えるか分からない、この平和な日常の中で、関わりあういろんな人に感謝の気持ちを伝えなきゃいけないなと感じました。思春期真っただ中の中学生が全部素直になるのは難しいけど、できるだけ相手に気持ちを伝えられるよう努力したいです。

2年生：Hさん

震災は体験していないので本当の恐ろしさ怖さは分からないけど、こんなに大きな災害の中で赤ちゃんを出産するのは不安が大きかったらと思う。でも、そんな中、人々の協力もあって生まれてきたというのは、人一倍命のありがたみを感じないといけないと思いました。でも震災の被害を受けた人はもちろん、私たちも当たり前前に生きていること、当たり前前に生活できていることのありがたみを感じないといけないと思いました。そして、今、私たちが元気に過ごせているのは、親が一生懸命に育ててくれているおかげだと思います。今は思春期で親と喧嘩をしたり、上手に気持ちを伝えられないこともあるけど、今回の授業できちんと日頃から感謝の気持ちを伝えようと思いました。

3年生：Kさん

大震災で多くの命が失われてしまった中、無事に生まれてきてくれた命もあります。普段意識することはありませんが、自分たちがこうして生きていられるのは、親たちやその他の人たちの努力のおかげともいえる奇跡のようなことです。3月11日に生まれた子供たちが、周りを明るく照らすようなそんな希望の光として生きていけるといいなと感じました。僕たちの親も悩み、苦しみながら僕たちを生んでくれたのではないのでしょうか。僕もやがてそんな周りを照らす希望の光のように生きていけるといいなと思いました。大震災の数々の不幸にさいなまれても、希望の光を絶やさず、照らし続けることで何度でも立ち上がることができるのではないのでしょうか。それを自分の胸に抱いてくじけず人生に立ち向かうことが、陽生くんのご両親の言う「力強く生きる」ということにつながってくるのではないかと思います。

3年生：Nさん

私は今まで失ったものはもう戻ってくることはないし、失われたもの以外は何もないと考えるような人生を送っていました。ですが、今回の授業で失ったものがあるからこそ、新しい生命などが生まれる。決して失うばかりでなく、失ったもの自身ではないが、それと同じくらい大切なものが残り続けてくれるんだと学びました。また、強く生きることなど考えたことがありませんでしたが、今回の授業で自分にとって強く生きるとは、周りの人を支え、手を差し伸べて生きていくことだと思いました。このこととまじめに向き合えるいい機会でした。これからは、何かを失ったらすべて失ったではなく、ほかに何か大切な物や事が残っているんだと考えられるようになりたいです。また、自分にとっての強く生きることに向けて、少しずつ頑張っていこうと思います。